

全体会議録

司会者 それでは定刻がきましたので、ただ今より全体会をはじめしたいと思います。

全体会では、お手元の資料にあります①から⑤の五つのテーマに基づいて進行していききたいと思います。この後各学校代表者にそれぞれの学習会について説明をしていただいたのち、四人の方々に意見発表をしていただきます。その後、それらの内容も含めて、全体で意見交換をしていきたいと思います。活発な参加をお願いします。

それではまず、参加各校からそれぞれの学習会についての紹介を簡単にお願ひしたいと思います。

まず、牟岐中学校お願いします。

牟岐中 牟岐中学校の学習会の学習状況などを説明します。学習会は週に二回、月曜日と木曜日にあり、夏は七時半から九時半まで、冬は七時から九時までです。

学習内容は五教科の内容と同問題学習をしています。みんな真剣に取り組んでいます。人数は五名ですが、そ

のうちの一名が参加できていません。このことについては全員で取り組んで、その人も参加できるように努力しています。

今年の学習会のキャンプは、小・中合同で行います。そこへ卒業生の人も参加してくれます。学習会の交流会に参加して心が強くなり自信ができました。その中で、信じ合える仲間づくりが大切だと感じました。

司会者 ありがとうございます。

続いて、日和佐中学校お願いします。

日和佐中 日和佐中学校は、現在学習会の仲間は十二人と少ないです。活動は週二回の三教科の勉強と、月一回の全体学習を行っています。今回は、みなさんと共に学んでいきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

司会者 ありがとうございます。

続いて、新野中学校お願いします。

新野中 私たち新野中学校の学習会では、週に二回行っています。教科学習を中心に行っていますが、月に一回同問題学習を行っています。同問題学習の時は、全年が集まって意見を出し合っています。

その他学習会の行事に、夏季キャンプ、親子遠足、冬期合宿などがあります。夏季キャンプ、親子遠足では、主に仲間との絆を深め、冬期合宿では、学習会以外の人とも連帯参加して、共に同和問題学習について話し合っています。

司会者 ありがとうございます。

続いて、阿南中学校お願いします。

阿南中 阿南中学校の学習会は、火・木の週二回、七時から八時四十分まで行っています。おもな内容は、五教科の学習と同和問題学習が月に一回。少ないと思うので、二期からはもっと同和問題学習の回数を増やしてもらう予定です。

それ以外に、六月には親子球技大会。今月十日、十一日に夏季キャンプを蒲生田岬で野外活動をします。十月には学習会交流会があります。市内の学習会に参加する生徒が集まって、高校生との交流をします。十二月には冬期合宿があります。先生、保護者、地区生、地区外の生徒が参加して、一泊二日で同和問題について話し合いをします。

司会者 ありがとうございます。

続いて、加茂名中学校お願いします。

加茂名中 加茂名中学校です。私たちは人数が少ないのですが、教科学習や同和問題学習に取り組んでいます。でも、最近では人数が少しずつ増えてきています。夏休みの一泊研修では、保護者の思いを夜、じっくりと聞くことができました。

また、徳島市ではリーダー研修といって、市内の学習会生が集まっての研修を行っています。

今日はいっぱい勉強していきたいので、よろしく願います。

司会者 ありがとうございます。

続いて、国府中学校お願いします。

国府中 国府の学習会は、週二回、月曜と金曜にやっています。地区外からでも勉強をしに来たりと、活発に同和問題学習などに取り組んでいます。

司会者 ありがとうございます。

続いて、鴨島第一中学校お願いします。

鴨島第一中 鴨島第一中学校の学習会について説明します。

会場は二会場に分かれていて、日頃は教科学習と同和問題学習を中心に行っています。参加者は1年生十一名、

2年生十二名、3年生五名です。同和問題学習ではいろんな資料を使って、自分たちの思いを伝え合っています。しかしなかなか話し合いの中に入って来れない人もいますが、それでも仲間意識を持って頑張っています。今年は地域の人が同和問題学習のときどき入ってきてくれます。そして一緒に阿波の部落史の勉強をしていくということになりました。また夏休みの間に、大阪の人権博物館にも行くことになっています。学習会の際は全年仲良く勉強させていくことができます。これからもう少し人数ですが、みんなとがんばっていこうと思います。

司会者 ありがとうございます。

続いて、川島中学校お願いします。

川島中 川島中学校学習会は、1年生五名、2年生一名、3年生六名、計十二名で、毎週火曜日・木曜日の週二回行っています。同和問題学習は月二回行っています。その他、一泊研修、社会見学等の子ども会活動を年間通して行っています。二期からは、私たち先輩の高校生友の会との交流も始まります。学習会の仲間はみんな仲良く、学年分け隔てなく活動しています。

今日は3年生四人が参加しました。県内の仲間の活動や思いなどを聞き、勉強し、これからの私たちの活動にいかしていきたいです。よろしく願います。

司会者 ありがとうございます。

続いて、山川中学校お願いします。

山川中 山川中学校では、学習会の開講式や閉講式にはほとんどの人が出席していますが、火曜日と木曜日の学習会の出席率は六割から八割です。自分の目標を持って、真剣に取り組んでいる人もいますが、中にはその時間を生かしてない人もいます。

山川中学生は四つの小学校区から来ていますが、中学校では道徳や学活の時間に、「わたしの願い」などを使って同和問題学習などを行っています。

これからの二十一世紀に向かって、差別のない社会をみんなで作っていくために、もっと同和問題学習について真剣に取り組み、さらに交流を深めていきたいと思っています。

司会者 ありがとうございます。

続いて、三島中学校お願いします。

三島中 私たちたちの学習会は、週二回月曜日と木曜

日にあります。教科学習が主で、国・数・英の三教科を勉強をして、月一度ぐらい同和問題学習をしています。資料を読んだりビデオを見たりして、意見を言い合ったりしています。

小学校4年生から、今の中学校1、2、3年同じメンバーできています。毎年進路相談会というのがある、近くの高校の五校の学習会の先輩が、中学校3年生全員の前で、自分の学校の説明をいろいろしてくれます。また、夏に一泊研修と納涼祭があって、地域との交流や友達との友情を深めています。

司会者 ありがとうございます。

続いて、三好中学校お願いします。

三好中 こんにちは。三好中学校は、人数が二人という学習会で、少し寂しいです。

今、地域の三番叟という民芸があるので、その話を聞いて、勉強しようと思っています。今日は話を聞いて勉強して帰りたいです。

司会者 ありがとうございます。

続いて、三野中学校お願いします。

三野中 三野中学校学習会は、全員で五人いて非常に少な

いんですけど、週に二回、火・木曜日にやっています。月一回同和問題の勉強をしているけど、学校で全然そういうふうな学習しても、みんなが相手にしてくれないっていうか、そういうふうなので、みんなあきらめてしまっている状態で、僕に力がないのかもしれないけど、どうしていいのかわからないので、ここで学習して帰って、みんなにわかってもらいたいと思います。

司会者 ありがとうございます。

続いて、美馬中学校お願いします。

美馬中 美馬中の学習会は、週に二回、火曜日と木曜日に行われています。火曜日は教科学習で、四時から六時。

木曜日は同和問題学習で、七時から九時に行われています。

また、行事としてキャンプがあります。東西二つの学習会があり、普段はあまり交流はないのですが、このキャンプは大事な交流の場となります。今年は一泊研修兼キャンプになり、地域の人の話を聞いたり、フィールドワークをしたりして、なぜそれがそこにできたのかなどを合い言葉にして考えました。

言いたいこと、考えたいことを言える場をめざして頑

張っています。また、それができる場です。

司会者 ありがとうございます。

続いて、吉野中学校お願いします。

吉野中 吉野中学校の学習会は、週に二回あります。月曜日は学習の日といって、部活は全て休みになっています。その日は、全会場同じ時間の四時半から六時までです。月曜日はおもに同和問題を取り上げて話を進めています。あとの一回は、それぞれ自分たちの都合のいい日、悪い日を各会場で相談し合い、全員が参加できる日を決めるようになっていて、七時から八時までの学習となっています。その日は教科学習を行うことになっています。

その他の行事などは、一泊研修などがあり、一泊研修では、日頃めったに話をする機会がない子や、違うクラスの子たちとこれを機に話をして、楽しく過ごしたりして、友達との親交も深められます。また普段の学校では見られない先生の楽しい笑顔も見られ、非常に夏休みの思い出の一ページにふさわしい研修です。

また、九月十三日には人権劇を行うことになっています。人権劇に出演できるのは、学習会に入ってる子だけと決まっているので、あまり劇に出たいという希望者は

いないと思っていただけ、募集したところ、何十人も希望があったので、それだけ熱心な人がいるのだと思って、すぐく先生方もやる気満々の様子です。その言葉の通り、先生は日頃から台本を作っている人から意見をもらい、少しずつ手を加えています。去年に続いて今年もよい作品ができると思うので、ぜひ来れる方は見に来てください。

司会者 ありがとうございます。

続いて、上板中学校お願いします。

上板中 おはようございます。上板中学校から参加しています。よろしくお願いします。

私たちの学習会は、3年生十五人、2年生十三人、1年生十人で、週二回月曜日と火曜日に上板町文化センターとバドゥ会館という二つの会場で行っています。みんなとても明るく、教科の学習や同和問題学習に頑張っています。今日は一日有意義な時間を過ごしたいと思いますので、よろしくお願いします。

司会者 ありがとうございます。

続いて、板野中学校お願いします。

板野中 板野中学校の学習会は、南会場、総合センター会

場、郡頭会場、大寺会場、川端会場の五つの会場があります。学習会のある日は、学習会に参加しているみんなの塾などある日をあらかじめ聞いておいて、それから日を組んでいます。そして月曜日はノー部活デーといって、板中生で部活に入っている子は部活がなく、学習会に行っている子は学習会へ、学習会に行っていない子は、家で勉強というふうになっています。

月二回、地域学習といって、南会場ならば、南会場の1年から3年までの子と、あと先生で話し合いをするという場です。

板野中学校の学習会の今の現状は、まだまだ学習会に来る子は少ないです。来ない、来れない理由は、やっぱり、自分が部落というのを知って行きづらいとか、自分に行きたいけど、親の反対によって来れない子とか、遊びたいなどいろいろありますが、これが今の現状です。

今、来ない、来れない子がどうすれば学習会に参加できるのか、板野中学校の学習会の中で、一つの大きな問題になっています。今日これらのことも話し合っていたと思います。これで板野中学校学習会の紹介を終わります。

司会者 ありがとうございます。

続いて、応神中学校お願いします。

応神中 応神中学校は、徳島市の北の方で、吉野川、今切川の近くにあり、全校生徒百八十名ほどの小さな学校です。

応神中の学習会は、参加者が現在五十五名ですが、実際に学習会で勉強している人は四十人たらずです。また、今年は地区外の子も何人か参加しています。

学習会では、教科学習の日には、国・数・英の三教科を、3年生は国・数・社・理・英の五教科で勉強をしています。

また、月に一回ずつ、同和問題学習の日と特別活動の日があります。特別活動の日は、1・2・3年生が一緒に集まり、同和問題学習や遊びや講演会など、いろいろなことをする日です。

学習会は毎週火曜日、木曜日にあります。いつもは七時からですが、夏休みや冬の間は、六時や六時半からと、少し早く始まります。私は学習会に参加する生徒がもっと増えてほしいです。また、こういうふうに学習会の交流会を、もっと盛んにしたいと思います。

司会者 ありがとうございます。

続いて、大麻中学校お願いします。

大麻中 大麻中学校は、週に二回、解放センターで学習会を行っています。人数は二十九人で、学習内容は国・英

・数・同和問題学習です。

また十一月に解放文化祭で、人権劇、フィールドワークの発表などもあります。今真っ最中なのですが、本年度は八月六、七、八、二泊三日で学習会宿泊研修を行っています。みんな協力して頑張っています。

司会者 ありがとうございます。

続いて、鳴門第二中学校お願いします。

鳴門第二中 鳴門市第二中学校です。第二中学校の学習会は、3年生二人、1年生三人の五人で頑張っています。

毎週火曜日と金曜日、夏は夜七時から九時までの間で、国語や数学の教科学習と、冬は六時半から八時までで同和問題学習をしています。

司会者 ありがとうございます。

続いて、豊中学校お願いします。

豊中中 豊中学校は香川県の西の方にある学校で、全校で約四百二十人ぐらいの学校です。

その中に、学習会には3年生五人、2年生二人、1年生五人の仲間が参加しています。毎週火曜日、金曜日の七時半から九時までしています。普段は学校の勉強を中心に、月二回ぐらい解放学習会をしています。

その学習会を中心に、最近学校のみんなに呼びかけて、希望者だけで解放学習会をしました。その中で私たちは、集まった仲間に学習会の内容、目的について発表をしました。これからもそういう会をどんどん増やして、私たちの仲間を増やしていきたいと思っています。

司会者 ありがとうございます。

続いて、不動中学校お願いします。

不動中 不動中学校は、都合によって参加できませんので、届いた手紙を代わって代読します。

夏まつさかりで暑い日が続いています。今日は、県内の各中学校からたくさんの中学生が集まり、部落差別解消にむけての熱い思いを確かめ合う集いとなっていることと思います。不動中学校は、これまで第一回、第二回の準備会に参加してきましたが、参加を希望していた生徒が高校の体験学習と重なっていたり、同和教育主事の先生が県外に出張していたりで、参加できません。とて

も残念です。今日の大会が成功することを心からお祈りします。

不動中学校では、毎週月曜日と木曜日に学習会を行っています。他の学校とは違い、同和地区生徒も同和地区外生徒も共に学習会で学んでいます。地区、地区外で立場の違いはありますが、不動という名前だけでこれまで差別を受けてきたという事実があるので、共に立ち上がっていかうとがんばってきました。私たちはこれを全員学習会と呼んでいます。

不動の持つ大きな問題に越境通学の問題があります。不動中学校は全校生徒の数が八十二名という小規模校です。そして、町内に住みながら不動中学校以外の学校に通う越境通学生が、今年でも三十七名ほどいます。ですから、町内の中学生の四人に一人が不動をさせているのです。

なぜ自分たちの生まれ育った町の学校に来ないのでしょいか。人数の減少により、部活動のチームの編成も思うようになりません。このことはやはり部落差別と切り放しては考えられないと思います。越境問題と闘うためにも全員学習会で同和地区生徒、同和地区外生徒が共に

力を合わせているのです。越境問題は私たちにとって最も身近な部落差別です。完全解消に向けてがんばっていきたいと思います。皆さんもがんばってください。一九九六年八月六日不動中学校学習会生徒一同。

司会者 ありがとうございます。

これで参加二十一校全ての中学校の学習会紹介が終わりました。

それではこのあと、四名の意見発表をいただいた後、本会場全体で意見交換を行いたいと思います。意見発表をする人は、前の方に集まってください。

それでは一つめの報告を板野中学校Oさんよりお願いします。

板野中O 私は、自分の両親がとても大好きです。それは何でも話し合うことができるし、両親がともに、私にとって素晴らしいアドバイスをしてくれるからです。

私の家は、同和地区にあります。そのことで、両親とよく結婚差別について話し合うことがあります。お父さんとお母さんは、決してみんなの祝福を受けて結婚したわけではありません。最近、そのことを知りました。それは、お母さんは、部落外から部落にお嫁に来ることに、

大反対を押し切って結婚したからです。お母さんは一度も実家に帰ったことがないし、帰ろうともしません。だから私は、まだ一度もお母さんの祖父母にあつたことがないのです。

お母さんは言います。「Oは結婚差別にあうよ。でもな、母さんはどんな障害があつても、お父さんと結婚してOを生んだこと、後悔してないよ。Oが本当に好きな人と結婚したらいいよ」と、そしてまた「結婚の時にになったら、相手の本心がわかるよ。Oと本当に結婚したいなら、部落や関係ないし、相手の親の差別意識をなおしていつてくれるよ。でも一番大切なのは、O自身の人間性なんよ。Oの人間性が一番問われるんよ。がんばって生きていかなあかんよ」とも言ってくれました。自分が経験した結婚差別を乗り越え、私を生んだことに後悔もない母を、私は心から尊敬しています。

お父さんは、私ぐらいの時には、目の前で差別され続けたそうです。友達の家に行っても居留守を使われたり、口で「部落のやつは来るな」とか、平気で言われたそうです。でも、お父さんは言われてもずっと我慢をしました。もしそこでお父さんが怒って暴力を振るったりする

と、「あつ、部落のやつはやっぱり」と言われるからです。この話の時、お父さんは涙を流していました。私は、お父さんがたくさんのきつい差別に堪えてきたんだなと思うと、悔しくて悔しくてたまりません。でも、こんな両親だからこそ、私の誇りなのです。

二ヶ月前、クラスメイトのTくんの家に、差別電話がありました。その内容は、「アンタの家は同和地区なんだろ。エツタなんだろ」というものでした。この話を聞いたとき、私はこわくてこわくてたまりませんでした。もし私の家に電話がかかってきたらと思うと、心がビクビクしてしまうのです。この事件から、私たち学習会の仲間の意識が変わってきたように思います。現実の差別を目の前にして、本当に私たちがするべきこと、なくてはならないことが、何なのかを、真剣に考えるようになりました。

私が今しなければいけないこと。それは、同じ部落の人間同士が、心からつながり、仲間となっていくよう、部落問題学習に取り組んでいくことです。クラスや学年、学校の仲間と、本当の意思でつながらなくては、厳しい部落差別に負けてしまうのです。そのために、もっとも

っと勉強して、正しい知識を身につけ、優しくて強い人間にならなくてはいけないのです。今の私は、まだまだ弱いけれど、仲間とつながりながら、強く、そして差別する人をただ憎むのではなく、その人たちを納得させるような優しさや強さを身につけていけるような生き方をしていくつもりです。

司会者　ありがとうございます。

続いて二つめの報告を吉野中学校Mくんよりお願いします。

吉野中M　「許せない部落差別」12HR、M。

僕は、中学生になって、本格的に部落問題学習に取り組むようになりました。小学校の時は、「たかが部落差別、きれいごとだけ言っていればいい」と思っていました。しかしそうではありませんでした。今まで部落差別を受けたことがないから、実際には差別を受けた人の気持ちがよくわからないのですが、以前一つだけ、「あつ」と思うことがありました。

ある町へ遊びに行っているとき、どこかの家のおばあちゃんが、「あつちの子とや遊ばれんよ」と言っているのを聞きました。嘘ではありません。本当なのです。聞

いた時はあまり意味がわからなかったけど、家に帰って母に聞くと、「あつちというのは、部落の子のことを言っているんですよ」と教えてくれました。それに付け加えて母は、「まだこんな時代になっても、部落差別が残ったんやなあ」と言いました。すごく悲しいことです。人が作ったものなんだから、いつか滅びるはずなのに、まだまだ根強く残り、何百年も続いている部落差別。絶対おかしいと思います。

僕の母は部落出身です。母は、徳島市のある部落に生まれました。生まれたときから、「部落外の人とは結婚できない」と、子どもの頃から祖母から言われていたと言っていました。だから僕も部落出身なのです。それを知ったのは小学校5年生の時でした。正直言ってショックを受けました。「部落の人だから差別される」と思ってたからでした。だから、自分の母が部落出身だということをずっと隠していました。

しかし、中学生になって先生と話していく中で、「臭い物にはフタをすればいいんだ」と思っていた僕の考えを、根底から覆すものがありました。先生は、自分の中にあるドロドロした差別意識を僕たちの前で語ってくれ

ました。だから、僕も本音を言いました。僕はその時思いました。「みんな部落差別解消に頑張っているのに、僕だけきれいごとばかり言って逃げていけば、12HRの和を壊すだけだ」と。母はよくこう言います。「高校生になって奨学金なんて受けていい。奨学金を受けることで、『部落の子っていいなあ』という逆差別を受けることがある。同情や哀れみを抱かれるなら、奨学金はもらいたくない。奨学金を受ける部落の人が、全て解放に立ち向かう人ばかりではない。お前が奨学金の本当の意味を理解し、それを有効に使えるときがきたとき、堂々と奨学金を受ければいい」と。どうして母をそこまで言わせるのかと考えると、やはり、今までの母の人生の中で、厳しい部落差別を受けてきたんだと思いました。その母の顔には、「部落出身だからというだけで、奨学金なんか受けていい。愛の手をさしのべてもらわなくても、自分で這いあがっていく」と言わんばかりの顔をしていました。その顔は怒りに震えていました。

しかし、そんな母でも自分を見つめてこう言いました。「私にだってな、差別意識はあるんでよ」。母はそんな意味もかねて、高校で徳島県奨学生集会、「県奨」に参

加したのです。そこで母は大勢の同じ立場の仲間の前で、本音を言ったそうです。かなり迫力のある会だと言っていました。こういう素晴らしい会を開いて部落差別解消に取り組んでいるのに、それを踏みにじるような人が、母が高校時代の時にいたようでした。

母がテストで点が良かったら、「あの子部落のくせに点がいいわよ」と陰でこそこと言っているのを聞いたそうです。また、「どこから来たん」と言われて出身校を答えると、変な顔をされると言っていました。

絶対おかしいです。同じ人間なのに、部落出身の人だけ違う扱いを受けるのは、絶対におかしいです。そして母は、「結婚の時も差別を受けた」と言っていました。親戚までに反対され、一時は結婚をやめるまでいったということです。しかし、父や母は頑張りました。差別を受けても、それに負けず結婚した両親を、僕は強いと思うし、誇りに思っています。なぜ部落の人と部落外の人との結婚はうまくいかないのでしょうか。そういうことはどんどんくしていかなければならないのです。そのためには、みんなが立ち上がらなければならないと思います。しかし、今のみんなでは絶対無理だと思います。だ

って、みんな立ち上がるうとしていません。僕もその一人です。どうでもいいわと思う心が、差別解消につながっていかず、そのままズルズルと強く残っているのです。そんなことは僕はいやです。だから、みんな協力してほしいのです。人ごとと思つては絶対いけません。他人ごとと思つても、必ず自分の身にふりかかってくるのです。現に、僕は自分の身にふりかかってきました。だから、心を入れ替えて一から真面目にこの学習に取り組んでいきたいと思つています。おかしいことは「おかしい」、間違つていることは「間違つている」と言えるそんな人間にならなくてはと思います。

今、僕には部落差別に対する怒りが前へ出てきています。クラスでの部落問題学習に、真剣に取り組むつもりです。クラスの中で本音が言い合いたいです。そのためにはまず、心を許し合える仲間づくりからだと思います。僕たちのクラスは、まだまだバラバラです。周りにチリが落ちていても、自分が落としていないから拾わないという自己中心的な人が多いです。もちろん僕を含めて。人のことを考えられる優しさ、人の痛みを自分の痛みとして感じられる優しさが、今僕たちに要求されているこ

とだと思ひます。母はよく僕にこう言ひます。「努力しない者は、夢を語る資格なし」と。部落出身だということとを隠さず、恥ずかしがらず、堂々と生きていくためには、まだまだ努力不足です。人の人生を踏みにする部落差別。僕は絶対に許さない。

司会者 ありがとうございます。

続いて三つめの報告を吉野中学校Iくんが入院中のため、Yくんより代読お願いします。

吉野中Y 「堂々と故郷の名が言える日に」。

僕が初めて同和問題について自覚したのは、小学校5年生の夏でした。県の水泳大会へ参加したときのことです。僕の名前が呼ばれて、集合場所へ行く途中、次の選手の名前が呼ばれました。「吉野町、一条小学校のAさん」ちょうどその時、僕の隣りにいた人たちが「吉野って同和地区なんだろ」という声が聞こえてきました。最初はそれがどういう意味かわかりませんでした。

九月になり、学習会で部落差別について習いました。

その時は、はっきりと教えてくれず、僕は家に帰って両親に聞いてみました。両親は一から十まで教えてくれました。それでもまだ小学校5年だった僕には、理解でき

ませんでした。それ以来、学習会で部落のことを勉強する度に、だんだん同和問題についての意味がわかるようになり、もうそれがあまり存在しないことなんだと思い始めていました。

中学校に入学し、すごく驚いたことは、もうあまり存在しないと思っていた同和問題に、学校生活の中で一生懸命に取り組んでいたことでした。それに学習会も、中学校になれば勉強ばかりするのだと思っていましたが、意外にも学習会の主な活動は、同和問題に関するものでした。中学生になり、なぜ学習会が存在するのかかわかった時もシヨックの色をかくせませんでした。でも学習会で同和問題についての学習をしているうちに、学習会があるのが不自然ではなく、同和地区という特別な地区を作ったのが悪いのであり、それをまだ存在させている日本の社会や、それを心のすみからなくそうとしない人々が悪いということがわかりました。そして、学習会や学校で同和問題学習をする時は、真剣に取り組んでいこうと思いました。

同和問題について考えるようになってしばらくは、何かに腹が立ち、両親や祖父母に反抗的になった時期もあ

りましたが、「でも僕ら同和地区の人間がなくしていかねければならないんだ。僕らがやらねければならないんだ」と思うようになりました。

ところが、中学3年になる春休み、こんなことがありました。家庭教師の面接を受けたときのことです。僕と両親、それと先生とで話をしていたとき、曜日を決めるときに先生が、「月曜日はどうですか」と聞きました。僕は戸惑わず、「学習会があるので月曜日は無理です」と言いました。すると先生に「学習会って何ですか」と聞かれました。僕は、先生が町外の人なので知らないと思い、「学習会というのは・・・」と説明しようとしたとき、父が、「近所の子たちが集まって勉強する会です」と言いました。面接が終わった時に、僕は「どうして本当のことを言わなかったのか」と父に尋ねました。すると父は、「同和地区であることを一つひとつ説明する必要はない」とあっさりと答えました。僕は怒りを覚えしました。「同和地区出身だからといっても、一人の人間として変わりはない。どうして隠さなければならぬのか。なぜ変な目で見られなくてはならないのか。それに、どうして堂々と学習会の意味を説明してくれなかったのか」

と言いたかったです。けれど言えませんでした。でも今は、その父の気持ちを考えることができます。父は四十年以上も生きて、今までに厳しい差別を受けてきたのかもしれない。そんな父の体験から、部落や同和地区というものは軽々しく人前に出すべき言葉ではない。地区出身とわかれば差別されることが実際にある。だから必要以上に言わないほうがよいと父は考えたのでしよう。

僕は、同和問題について、自分の立場についてわかっていると思いつつも、部落差別の本当のところを見抜いていませんでした。父とのやりとりの中で、やはりまだ差別は残っているということが理解できるようになりました。まだ部落差別は生きている。父はそれを教えてくれました。それと同時に、自分が地区出身であると言わなければならない時は堂々と言い、立ち向かっていけとも言ってくれました。

部落差別の本当の厳しさを知り始めた僕たちが一人ひとりの基本的な人権を尊重し合い、完全に差別をなくし、本当の平和な暮らしをつくっていかねければならないと決心することができました。僕は、もうすぐ吉野中学校を卒業し、高校に行きます。そして数年後には社会に出

ていくことになるでしょう。もしかすると差別に直面するかもしれません。けれど僕はそんなことに負けず、強く生きていこうと思います。差別と闘い生きてきた両親や先輩たちを見習って、差別に背を向けず正面を向いて歩んでいこうと思います。そして誰もが、堂々と故郷の名が言える日を勝ち取りたいと思います。

司会者 ありがとうございます。

続いて四つめの報告を板野中学校Nくんよりお願いします。

板野中N 「学習会によせる思い」板野中学校2年N。

僕は今、学習会に参加している。そして今、一番思うことは「仲間がほしい」ということ。

僕が今、学習会や部落問題学習に取り組んでいるのは、二つのわけがある。

一つは、支えてくれる、励ましてくれる、おこつてくれる、応援してくれたりする仲間がいるから。

何カ月か前に、学習会に仲間が来ないのは自分のせいだと悩んで、何もかもにやる気をなくした時期があった。そのことについて、学習会が終わってからその悩みを聞いてくれたのも、学習会の仲間だった。その中でも、違

う会場の知らない先輩が、いろいろアドバイスをくれたのはうれしかった。そんなふうに、学習会には会場、学年をこえて、支えてくれる仲間がいるから、僕はがんばれる。

そしてもう一つは、自分自身のため。僕の両親は、結婚するときに結婚差別を受けた。でも、両親はそれに負けず、僕を生んでくれた。でも、結婚して僕が生まれてからも、差別はひどかったらしい。そのため、僕は母さんの母親とは年に何回も会っているけど、母さんの父親とは、一度も会っていない。幼いとき、両親に連れられて小さい妹と母さんの実家に行ったが、母さんの父親には会えなかった。母さんには、姉と弟がいる。その二人の子どもは、母さんの父親に抱かれたことがあるらしい。でも、僕は抱かれたことがない。他の人にとってはどうでもいいことかもしれないけど、僕はすごくくやしい。

そんなことがあったせいか、父さんは母さんの父親に對しては、すごくきびしい。僕は、母さんの父親をずっと憎んでいた。でも、今は一度でいい。一度でいいから、母さんの父親に会いたい。そのときに、ただ単に僕の元気な顔を見せて「じいちゃん！」と呼びたい。でも今、

母さんの実家に行くにも、こわくて行けない。すごくこわい。それに打ち勝つような自信をつけるために、学習会に通っている。

通っている中で一番思うことは、最初に言ったように、一人でも多くの仲間がほしいということ。一人でも多く学習会に参加してほしい。僕もいろんな思いがあるけど、しんどいしんどい言いながらも学習会に行くのは、学習会の仲間が好きだから。「部落差別をなくすために」、それが必要だけど、ただ単に「好きだから行く」「勉強しに行く」「友達の顔を見に来て帰る」最初はそれだけでいいと思う。

学習会に参加できてない人に言いたい。学習会を重く考えないで、ゆるい気持ちでみてみませんか。そうすれば、学習会のいいところが見えてくると思う。どこの学年、会場もきつと来れてない子を待っています。僕も待っています。なぜなら、明るい笑顔を見たいからです。

今は、学習会に行くのがしんたい。でも、学習会の全員参加を目標に、エンジンをかけなおしたいです。

司会者 ありがとうございます。意見発表をしていただいたみなさんは降壇して、元の席に戻ってください。そ

れではここで、トイレ休憩を五分間とろうと思います。
その後で、意見交換に入りたいと思いますので、よろしく願います。

《休憩》

司会者 引き続き意見交換に入りたいと思いますが、話し合いの内容は、お手元の資料にあります①から⑤の五つのテーマや、ただ今していただきました意見発表について深めていきたいと思います。

なお記録の關係上、発表者は中学校名、学年、氏名を言ってから発表していただきますようお願いします。それではよろしく願います。

板野中 板野中学校のKと言います。3年生です。

いろいろ言いたいことがあるんだけど、最近思うことは、今日集ってるみんなや自分というんはな、やっぱり今の社会の中で部落差別を受けるんよ。それでな、自分もな、この間自分の家に電話がかかってきて、「アンタんとこエッタだろ」って、「アンタの家って同和地区だろ」って、全然知らん人から電話があって、「この人は何を言よんかな」とか、「これが部落差別なんやな」とかそういう体験みたいなんがあって、やっぱりその時、

「自分は差別を受けるんじや」って、「やっぱり今の世の中まだ差別がある」って、心の底から感じたんですよ。自分が部落であるっていうこと考えながらっていうか、いつもそれは思ってるんだけど、自分の将来について考えたってたら、やっぱり部落外の人と差があるみたいな状態になってるって思うんよ。けどな、やっぱり部落に生まれた人間と、部落外に生まれた人間の立場の違いってほんまにあるなって思って、部落外の人間がそういう差を広げていってるっていう事実もあるように思うんですよ。いろいろ勉強したけど、部落の地区に、人の嫌がる工場とか作ったりね、やっぱりその差別を残していつてる社会があることに最近、部落差別についての本とか読んで気づいて、やっぱり自分が、差別を当然のように受けるわいやが黙っとしたら、絶対今の社会は良くなくていかんと思うんよ。他にもいっぱい言いたいことあるけど、今日のこの会な、さっき不動中学校の読んだけど、みんなが立ち上がっていきけるような、みんなとつながっていきけるような、自分に自信がつくような会にしたって、わいは思うんよ。今言ようことわからんようになったけど。わいやを差別するっていう現実がある中で、

敵しい中でな、僕やっというんは、周りを変えていく存在になっていかなあかんって、今思ってます。だからこのままではいかんと思います。くらくらになったらいいんと思います。

司会者 今から発言する人は、みんなの方を向いてから発言してください。

板野中 板野中学校3年Mです。

今日こうやって集まったわけなんやけど、ほんまにみんなが自分の思いを語っていきけるような会にしたいと思うし、僕もどんどん語っていきたいと思います。やっぱり僕も交流会などを通して、県内外の人たちに支えられて今の自分があると思うんですけど、やっぱりほんまに支え合っていけるような関係をつくりたいと思います。

僕自身、直接的な差別は受けたことないんですけど、同じ仲間が差別電話受けたことを聞くと、やっぱりどうしても他人ごととは捉えられなくて、ほんま自分が受けたような感じで怒りがこみあげてきます。やっぱり差別を受ける立場の人間として、本当にお互いを理解し合っていて、お互いを語っていくことが大切と思うし、やっぱり自分自身と重なるところがあると思います。自分を語る

ことでほんまのつながりをつくっていきけると思います。

今日は、まだ最初で緊張して、話がちょっとモジモジしていますが、そろそろ僕は発表が止まらなくなります。そうなる前に、みんな発表しておいてください。

板野中 板野中学校3年のTです。

さっき板中の学習会の説明でもあったと思うけど、他の中学校の説明だったら、部落外の子も一緒に学習会に参加して一緒に学んでるっていうふうな意見があったけど、これは僕の意見やけど、やっぱりそれは違うような気がするんです。やっぱり部落の人間と部落外の人間の立場の違いっていうかな、やっぱりどうしても部落の人間にしかわからん気持ちってあるし、部落外の人間にしかわからん気持ちってあると思うんです。そういうのとか考えてたら、お互いのわからん気持ちをわかり合おうとして交流するんはいいと思うけど、ほなけど、部落外の子を学習会に連れてきて一緒にするっていうんは、なんか違うような気がすると思うんです。まだ言いたいことがまとまってないけど、分散会のときにまたいっぱい発表すると思うんで、そのときに言います。

吉野中 僕は最初部落差別って、小学校の頃に聞いて、受

けたことがなかったけん、「ほんなんさされるヤツが悪いんじゃ」って思ってたけど、中学校になって交流学習会とか参加して、僕らの周りには、やっぱり学習会に行ってる子がいっぱいいて、あんまり差別とか受けることはないけん、自分はせんでもいいと思ってたけど、電話を受けた子は、自分の周りに助けてくれる友達がおるかっていうことが、やっぱり不安になると思うんよ。ほなけんこういうところで、そういう電話や差別に負けんように、自分とか仲間を考えを、もっと成長させていくことができると思うんで、がんばりたいと思います。

国府中 国府中学校のMです。

今回の僕の意見は、3年になって友達と話してる間に、こういう話題がのぼったからです。ほの話題は、ある友達Aくんが、「部落の子っていいなあ」って。ほなけん「なんで」ってきいたら、「道はきれいに舗装されとうし、家は税金で建ててもらえる」とか、無茶苦茶なこと言うってたんですよ。ほなけん「ほんなことないよ」とか言よかったんよ。ずっと。ほんでもほの子言い続けて、友達とか来て「ほれはちゃうだろ」って。ほなけど、ほの子は納得したんやけど、ほの後また意見ぶり返して納

得せんかったけん、今日集つとう中でみんなの意見聞いて、ほれに對抗できるような意見を自分で見つけて帰りたいと思います。

司会者 今の意見についてみなさんはどう思っていますか。
板野中 板野中学校3年のMです。

さっきMくんが言ってくれたことなんやけど、最近そのねたみ差別について勉強し始めたばかりなので、あまりよくわからないところあるけど、みなさんねたみ差別ってわかりますか。板野中学校の場合だったら、県外などに交流会に行くんですけど、自分でお金を払って行くんでなしに、学習会の方から費用を出してもらって、交流会などに行くんですけど、僕自身としては大阪行くのにしても、遊びで行くのではない。ほんまに仲間をつくりたい思いで、大阪へ行ってきました。でも帰ってきたときに、部落外の子から、「大阪行ってええナア」とか、何のためにとか、ほんなん全部わかってないまま、「ええナア、ええナア」って言われるんですけど、僕は、ねたみっていうことについて国語辞典引いて調べたんだけど、ねたみっていうんは、憎しみっていう意味だったと思うんですけど、そういう「ええナア」って思わ

れる、……ちよつと誰か助けてください。

板野中 板野中学校のKです。3年生です。

さつきMくんがねたみ差別のことについて言ってくれたんですけども、僕もねたみについて考えたりするんですけど、部落の道がきれいになってとかな、団地とかマンションとかだったら部落の人は部落外の人より安うに借れるっていう現実ってやっぱりあるでえな。ほれはほんまにあるんよ。道を広くしたりな。僕もまだそんだけ知識がないけんわからんのやけど、ほうやって部落の人は「道が広くなつていいなあ」って言よる人に僕が思いよつたことは、「アンタや部落差別についてどんだけ知識もつとんな」とかって、自分で僕一人腹立てとう部分みたいなんがあつたんよ。ほなけど、道を広くするにしても、その広くしたときに周りの人に、なんで道を広くするかとかな、そういうんを知らせてない現実があるっていうことに気づいたんよ。ほなけん、もつとねたみに対する問題ってあるけんな、ほれはやっぱり、部落である僕やが、なんで道を広くするのとかかな、それにやっぱり部落外の人、ほういう現実みたいなこと知らんけん、そうやって言よる部分みたいなんが僕はあるんでないん

かなつて思いよるんよ。ほなけんな、ほれは僕やが運動する中でな、差別なくす運動する中でな、どうして道が広くなつたのとか、なぜ……なんか差別しよる人はいっぱいおるけどな、わいやのこと全然知らんのに差別しよう人がいっぱいおるっていうことに気づいたんよ。ほなけんな、僕やはやっぱりいろんなこと言うていかないかんなどかつて思つてます。

司会者 同じような意見の人があればどうぞ言つて下さい。

板野中 板野中学校のOです。

そういう部落でない人は、ずっと昔の人がどんな苦しみを味わっているか知らないから、そんなことが言えるんだと思います。

板野中 板野中学校2年のKです。

多分やけど、道が広くなつたんは、今まで狭かつた道を急に広くしたから広くしたつて言ようと思うけど、地域外の道を広くしたら、多分何も言わんと思うんよ。ほなけん、相手が急に広くしたけん、ずるいなって、わいらのとこはしよらんそつて言ようけど、ほんまはしよらん気づかんと、自分らの所を見よらんと相手の方ばっか見

ているから、ほういうねたみ意識が出てくと思う。

美馬中 美馬中学校3年Tです。

結局なんでねたみが起こるのかといえば、結局そこに至るまでの状況を周りの人々が詮索しようとしていないからだと思います。それに至るまでの過去にどういうことがあったのかということ、認識せずに、結果のみを見るから、そういうことが起こるのだと思います。結果として良くなっているというに対して、自己の利益が伴っていないような錯覚を覚えるから、そういうふうなねたみが起こるのだと思います。

美馬中 美馬中学校のTです。

道を広くするのは、今まで道が狭いと差別されてきたからであって、部落の人たちは道を広げて差別されないように改善して、なおその部落外の人々がそれをねたむっていることは、すごくひどいことだと思っています。

板野中 板野中学校3年のTです。

やっぱりねたみ差別っていうのは、今から何年か前に国が同和対策審議会答申というんを出して、国が初めて自分らの国に部落差別があるって、残つとるって認めて、ほんで僕らがこうやって集会とかをやんりよんは、ほの

同和対策審議会答申というんがあるけん、こうやってできよると思うんよ。ほれが出されるまではな、やっぱり部落の所に、他の人が嫌がる所に、人が嫌がるような工場とか置いてたけど、答申が出されたけん、そういうんをなくすための運動ができるようになったと思うんよ。ほなけど今まで部落外の人には部落の人に対して道が汚いとか、家が汚いとか狭いとか、そういうふうには部落を下に見とって、部落の人に対して同情心というかな、「こんな家でかわいそうやな」とかだったんがな、いきなり部落に対して国が良くしはじめて、ほんで自分らと急に同じ立場になったら、急にずるいかいうふうになたみ差別っていうか、ねたみ意識が変わってきたと思うんよ。僕の学校でもな、大阪とか行って交流したんやけど、やっぱり「大阪行けるんだろ、いいなあ」とか僕に言うて来る子もチヨイチヨイおるんよ。ほなけど、やっぱり僕もほれ聞いたら悔しいんやけどな、言い返せんていうか、自分がほんなにしまで学ぶような価値にまでいってないいうか：：ほういう子に対してな、「僕は遊びに行っきよんでなしに、勉強しに行っきよんじや」っていうふうなことがな、「勉強しに行こう」や思うてないけ

ん言えんのんよ。ほなけん、ほういう子がおったら、ほんまに僕こういうこと勉強してきたけん、また話してやるなどか言えるようにならな、やつぱりねたみ意識つてなくならんと思うけん、そういうふうなこともやつていききたいと思います。

司会者 あと時間が少ないので、どうしても言いたいという人は、手を挙げて言ってください。いろんな中学校の意見を聞きたいと思います。どうですか。

新野中 新野中学校3年のIです。

確かに部落の道路はきれいに舗装されていたり、いろんな施設が税金で建てられたりしてると思うんだけど、それを利用するのは私たち部落の人だけじゃなくて、部落以外の人も一緒に利用できるために作っているんだと思います。そしてその施設とか道路とかと一緒に共同で利用することによって、お互いをわかり合って、差別をなくしていこうとしているんだと思います。

大麻中 大麻中学校3年のKです。

僕はさっき初めてねたみ差別についていうのを聞いたんだけど、僕の考えとしては、今まで地区外の人は、僕たちのことを何らかの形で見下してきたんだと思います。例

えば、言葉で言っただけのことやけなしたりしてきたのにいきなり、道路だったら道路できれいになった。地区外の人が今まで僕たちのことを下に見ていたのに、自分たちが見下していた人が急に自分たちと並んだから、どうしても「また下に落としてやろう」と思うんだと思います。だから、そういう発言が出てきて、差別の種類とかも増えてきたんだと思います。

司会者 そろそろ終了時間も迫ってきましたので、このへんで本全体会を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

この後昼食、休憩をとりまして、十三時までには各分散会場へ移動しておいてください。お弁当を注文されている方は、全体会場の後ろで受け渡しをしますので、この後受け取りに行ってください。ジュースは隣りの会議室で一本ずつとってください。

なお分散会場ですが、資料の七ページを開けてください。1学年はこの会場を二つに分けて行きます。2学年は隣りの二部屋を使いますが、イスがありませんので、今座っているイスを持って移動してください。3学年は向かいの和室二部屋を使いたいと思います。

分散会では、やはり資料にあります各学年のテーマに基づいて進めさせていただきたいと思いますので、それぞれの考えをまとめておいてください。

それでは、周りの仲間に積極的に声をかけ、互いに交流し合いながら食事をし、お昼のひとときを過ごしてください。よろしくお願いします。